

オジロワシ (タカ科) 全長オス80cm、メス95cm

今年も大仙市にオジロワシが姿を見せてくれました。

10月28日、通称ナダラの急斜面で観察され、昨シーズンより20日ほど早い飛来です。周辺の花々の紅葉をバックにした写真が撮れました。オジロワシを撮り続けて20年ほどになるが、いつも裸木に囲まれた殺風景な写真しか撮れませんでした。



鮮やかな紅葉を眺めているのでしょうか。

ナダラの眼下を流れる雄物川と玉川は、海から遡上してきた鮭が産卵の最中です。

特に玉川の左岸は産卵に適しているようで、ざっと数えて10か所ほどで飛沫をあげているのが見えます。産卵所には潜水が得意なカワアイサが集まってきました。卵を狙っているのでしょうか。他にもカワウやサギの仲間も集まり、岸边は賑わいを見せています。



昨シーズン飛来したつがいの雄とされます。



ナダラで一番高い木の梢で周囲を見渡す。

高い木の枝からじっと眺めていたオジロワシが、ついに飛び立ちました。

上空で旋回してから、一気に岸边の浅瀬に飛び込んだ。大物でも捕まえたのでしょうか、体半分が水の中に入ったまま30秒以上も動きません。

意を決してやっと飛び上がると、足には大きな魚が握られています。

一旦岸辺の砂利敷に運び込み、ここでゆっくり食べようとしたのも束の間。カラスどもが、ぐるりと周りを取り囲んでしまいました。

オジロワシが食べ残したおこぼれをいただくという魂胆です。



クマタカの若鳥も飛来した。



獲物の鮭を狙い急降下。

お前なんかには美味しい餌は渡さないぞと、再び飛び立ちます。

しかし、カラスはこの機会を逃がしてなるものかとばかりに、その数 50 羽以上で追いかけてごっこが始まりました。

オジロワシは上流を目指してどんどん遠ざかり、視界から消えてしまいました。



鮭に気付かれないよう、両足を開きながらふわりと降りていった。



水中からなかなか飛び出せません。

翌日ナダラの斜面で、オジロワシは何事もなかったかのように悠然と佇んでいます。

あの鮭は十分に食べたのでしょうか。少くもカラスに邪魔されても、雄物川、玉川周辺には餌が豊富にあります。来年 3 月まで滞在してくれることを願っています。



まさしく、大きな獲物を鷲掴み。